

育児休業に関する体験記 4

20代 34日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

初めての出産だったので、夫婦共にとても疲れるだろうと考えました。そこで、家事も育児も優先順位を付けて、出来る人が出来る時に行うことにしました。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

授乳や寝かしつけの大変さは、育休中に身をもって体験したので、帰宅後は積極的に家事と育児を行っています。

(妻 記載欄)休業取得者の家事・育児の参画の状況について

私は入院期間があり、退院後に家事と育児をする体力が落ちてしまっていました。そのため、産後の回復を優先して、家事や育児は夫にかなり協力してもらいました。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

事前に育休を取る旨を上司に伝え、スケジュールに合わせて業務量を調整していただきました。また、現在担当している業務については、完了させて育休に入りました。

2. 評価・反省

業務量を調整いただき、スムーズに育休に入ることが出来たと思います。上司や先輩方からサポートを得られたことで、有意義な育児休業を取得することができました。

③自由記述

妻が安定期の頃は、私の業務が落ち着く季節に休むことを考えていました。しかし、早産のリスクがあり、予定日の2ヶ月前に入院することになってしまいました。初産で母体への影響や赤ちゃんの健康状態が心配だったので、退院後すぐに育児休業が取れるように、会社と相談させていただきました。すると、快く承諾していただき、そのころから業務のスケジュールを調整してもらっていました。

育休中は、想像していたよりも忙しく、特に授乳で睡眠が十分にとれないことでとても疲労感がありました。1ヶ月間育休を取得しましたが、この大変さを共有できたことで、家事も育児もより協力することが出来たのではないかと考えています。

育休明けは久しぶりの業務に右往左往しましたが、仕事を通して徐々に戻りました。想像していたよりスムーズに業務に戻ることができたのは、皆様のサポートが無ければ無理でした。とても恵まれた環境に身を置けている事を、改めて実感しました。

今回私は、大変有意義な育休を取得することが出来ました。この新生児期に育児に専念できたことは、私たち夫婦が育児を通して「家族」になるために必要な時間だったように思います。今後は、私の周りで育休を考えている人が居たときに、業務をサポートし、その人の背中を押せるように、より一層日々の業務に取り組んでいきます。